

# 平成 20 年度試験研究成果書

区 分	指 導	題 名	生産技術体系を活用したきゅうり経営分析シート	
[要約] 平成 17 年度に作成した生産技術体系のデータを活用して、比較的容易に入手可能なデータを加えるだけで、きゅうり作経営における雇用導入効果、雇用の導入条件(目標単収、労働生産性等)、目標所得を確保するための単収等、経営分析が可能なシートを作成した。				
キーワード	きゅうり	雇用	経営分析	企画管理部 農業経営研究室

## 1 背景とねらい

農業労働力の高齢化、担い手不足が進行している中、園芸作経営において他産業並の所得水準を確保するためには、雇用を導入し規模を拡大する経営展開が必要である。

しかし、雇用を導入した場合、雇用労賃単価を上回る労働生産性の確保が最も重要となることから、役割分担等による作業の効率化(効率的な労務管理の実施)や目標単収の明確化等、従来の家族経営とは異なるマネジメントが必要となる。

近年、きゅうりの単収向上対策として、摘葉作業を請け負う「摘葉ヘルパー」が各産地で導入されつつあるが、「作業が楽になった」等の定性的な評価のみであり、経営的な評価がなされていないことから、きゅうり作経営における雇用導入効果、雇用の導入条件(単収、労働生産性等)を具体的に検討する必要がある。 6 参考資料・文献(1)を参照

## 2 成果の内容

- (1) 平成 17 年に作成した生産技術体系のデータを活用して、比較的容易に入手可能なデータ(栽培面積、販売数量、販売単価、目標所得、雇用労賃単価、雇用労働時間)を入力することによって、雇用を導入した場合の効果と雇用導入のための条件等が分析可能なシートを作成した。
- (2) 労働 1 時間当たりの「雇用導入効果額 = 労働生産性 - 雇用労賃単価」を用いることで、雇用導入の経済効果を定量的に分析するとともに、雇用導入のための条件(単収、労働生産性等)を具体的に提示することが可能である。
- (3) 目標所得を得るために達成すべき単収水準や現状の販売単価における損益分岐点等も分析することが可能である。
- (4) 登録済の生産技術体系のデータ(費用や作業時間等)を変更することにより、個別の経営実態をより具体的に反映した分析を行うことが可能である。
- (5) 登録済の生産技術体系のデータは、本分析シートの「技術体系データ変更」シートにより簡単に変更可能である。

## 3 成果活用上の留意事項

- (1) 本分析シートで使用している生産技術体系は、きゅうり(夏ばやし、露地普通、10a 規模)である。
- (2) 雇用労力を導入する作業は「摘葉」と「収穫/調製」に限定している。

## 4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者  
野菜収益性向上対策チーム(きゅうり)、普及指導員及び農協等関係機関・団体の指導担当者
- (2) 期待する効果  
雇用を導入する際の経営目標(単収、労働生産性)の明確化による収益性向上

## 5 当該事項に係る試験研究課題

- (H16-02) 経営環境の変化に対応したネットワーク利用型農業経営設計システムの開発  
(H16-02-2000) ネットワーク利用型農業経営設計システムの開発 [H16-20, 県単]

## 6 参考資料・文献

- (1) 雇用労力活用によるきゅうり作経営の展開方向（岩手農研，2005，(指)-24）
- (2) 『生産技術体系』及び『営農計画作成支援シート』利用マニュアル（岩手農研セ資料，経営 17-No.1，平成 17 年 10 月）
- (3) 農業技術体系データベースの効率的な構築手法（農業情報研究，第 15 巻 1 号，p25-48）

## 7 試験成績の概要（具体的なデータ）

表 1 『きゅうり経営分析シート』のシート構成と内容

シート区分	シート名	シートの分析内容
前提条件	前提条件	個別データ（栽培面積，販売数量，販売単価，目標所得，雇用労賃単価・労働時間）を入力。このデータと技術体系登録データから収支を自動的に計算。
分析シート	単収 導入効果	雇用導入効果分岐点単収，分岐点単収での所得 労働生産性，雇用労賃単価，雇用導入効果額
	効率化 導入効果	作業内容毎に「削減割合」を設定。 作業の効率化による雇用導入効果を分析。 総労働時間削減率，労働生産性，雇用労賃単価 雇用導入効果額，労働時間削減後所得
	目標所得 分岐点	目標所得を確保可能な分岐点単収を分析。 分岐点単収（売上＝生産原価），現状単収の利潤
データ変更	販売単価 分岐点	販売単価と費用種類別（現金支出，経営費，生産原価）の損益分岐点を分析。 現状単価での損益分岐点単収 現状単収でのkg当たり現金支出，経営費，生産原価
	技術体系	技術体系登録データを変更
技術体系	基本情報	以下のシートは，生産技術体系：きゅうり（夏ばやし，露地普通，10a規模）の元データ



塗りつぶされたセルに，個別データを入力すると収支が自動計算・表示される。

シート右上のボタンをクリックすると，他のシートへ移動。

図 1 [前提条件]シート

[前提条件]シートで入力したデータをもとに，下記の数値を自動表示。

- 雇用導入効果分岐点単収
- 労働生産性＝雇用労賃単価となる単収
- 分岐点単収での所得
- ※雇用労賃を控除した所得（手取所得）
- 現状単収 7,300 kg/10a 時点
- 労働生産性 853.8 円/時間
- 雇用労賃単価 755.4 円/時間
- 雇用導入効果額（労働生産性－雇用労賃単価）
- 98.4 円/時間 14,262 円/10a

単収による労働生産性と雇用労賃単価の変化をグラフに自動表示

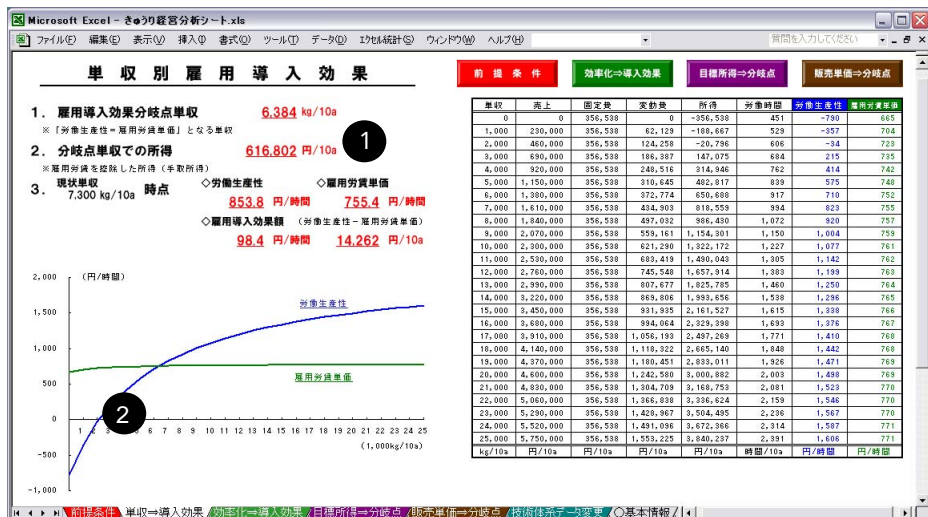


図 2 [単収 導入効果]シート